

教員採用試験に対する心構え

寺嶋 杏奈

○大学四回生の教員採用試験受験から社会人になるまで

私は四回生の頃に初めて教員採用試験を受験しました。しかし、教育実習や卒論と重なり、なかなか準備ができないままの受験となりました。もちろん手ごたえはなく、見事一次試験落ち。負けず嫌いな私ですが、悔しさも出てこないほどの記念受験となりました。

それからは卒論と塾講師のバイトをし、時間だけが過ぎていきました。

一月になり講師登録を自分の住んでいる市でしました。出身校でスタディーパートナー(スクサポ)をしていたこともあり、同市の中学校に四月から勤務が決まりました。

四月に入り、初めは仕事を覚えることに必死でしたが、周りの先生方の協力もあり少しずつ慣れていきました。

私が非常勤講師ということもあり、周りの先生方は仕事よりも教員採用試験の勉強を優先させてくれました。その支えが合格に大きく影響したと思います。

○塾の講師というバイト

私は三回生の終わりごろから塾の講師のバイトを始めました。個別指導の塾であったため、生徒それぞれ分からないところが異なり、その都度中学校レベルの内容を復習しました。教科も五教科全てだったので、バイトでの復習が自然と教員採用試験の勉強に繋がったと思います。過度のバイトは自分の首を絞めることとなりますが、塾講師は教員を目指す人たちには一石二鳥のバイトだと思います。

二度目の教員採用試験後に職場の先生方に一般教養を採点していただきました。すると教職教養以外のものはほとんどが中学生レベルの問題だったそうです。もちろん年度によって難易度は異なりますが、高校受験の内容を復習しておくことが大切だと私は思います。

○二次試験

無事一次試験を合格したと安心している間もなく、二次試験の準備に取り掛かりました。正直なところ二次試験の準備はあまりしておらず、自分でもどうしたらよいのか困りました。教頭先生や校長先生にもご指導いただきましたが、もともと上がり症な自分は何度練習しても上手くいきませんでした。

そして当日、もちろん知り合いもおらず、心細かったです。しかしたまたま大学時代の先輩と再会し、そして受験番号も隣同士だったので、個人面接では隣の教室、集団面接では同じグループになることができました。知っている人がいることで緊張の解けた私はいつも通りで面接に臨むことができました。いつも通りすぎて練習の内容はどこかに飛んで

しまいました。

しかし、今思うと変に自分を作らずにすることが大切だったと思います。自分の意見をはっきりと述べ、教員になりたいという思いを試験官に伝えることが大切ではないでしょうか。

○最後に

大学生の四年間はとても充実したものでした。しかし四回生ではゼミしか授業がなかったため、不規則な生活が続きました。一度目の不合格の要因はそこにあったと思います。もちろん三回生のころから準備しておくことも大切ですが、試験当日はかなりの長丁場になります。今のうちから生活リズムを戻しておくことをおすすめします。

そして本当に教員になりたい皆さん。一度不合格になっても諦めないでください。臨時講師や他の仕事をしながらでも本当になりたいと思うなら、その夢は必ず叶います。同じ職場になれることを楽しみにしています。